



デジタルスキル標準の 習得率調査から探る DX人材の現状

トレノケート株式会社

2023年5月

本資料について

- この資料では、2022年12月にIPA(情報処理推進機構)が発表した[デジタルスキル標準](#)で示された関連スキルについて、現時点での習得率や学びの意欲についての調査結果を掲載しています。
- また、一般的な学習方法をまとめるとともに、DX人材の育成にあたって参考にしていただける無料のコンテンツ等についても紹介しています。

本資料で知っていただけること

デジタルスキル標準(DSS)
の概要

DSS関連スキルの習得率

学びたいスキルのランキング

スキルの学び方

DX人材育成の参考情報



目次

1. デジタルスキル標準とは
2. DXリテラシー標準に関するスキルの習得率
3. DX推進スキルの習得率
4. 学びたいDX推進スキル ランキング
5. スキルの学び方（学習方法のまとめと希望）
6. DX人材育成関連コンテンツ・サービス紹介

1. デジタルスキル標準とは

- IPAおよび経産省が、DX推進に必要なとなる企業の人材育成の指針や個人が学習すべき項目をまとめたもの。「DXリテラシー標準」と「DX推進スキル標準」の2つで構成されている。

デジタルスキル標準

DXリテラシー標準

対象:全てのビジネスパーソン(経営層を含む)

目的:一人ひとりがDXを自分事にとらえ、変革に向けて行動できるようになる

DX推進スキル標準

対象:DXを推進する人材 – 5種の類型
(専門性を持ってDXの取り組みを推進する人材)

目的:自社・組織に必要な人材が明確になり、確保や育成の取り組みに着手できるようになる

DXリテラシー標準:全てのビジネスパーソンに必要な素養

- 一人ひとりがDXに参画し、その成果を仕事や生活で役立てるうえで必要となるマインド・スタンスや知識・スキルを示す、学びの指針として策定された。
- 環境変化に対応するために、全ての人が自身の責任で学び続けることが重要。

三本柱:

Why:
DXの背景

社会の変化

顧客価値の変化

競争環境の変化

What:
DXで活用される
データ・技術

データを読む・扱う

デジタル技術
(AI、クラウドなど)

How:
データ・技術の利活用

活用事例

セキュリティ

コンプライアンス

ベース:

マインド・スタンス
社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要な意識・姿勢・行動

変化への適応

アジャイルな働き方

デザイン思考

DX推進スキル標準:DXを推進する各ロールと、必要なスキルを定義

- DXの推進において必要な人材を5類型に区分して定義
- 各ロールに求められるスキル・知識や学習項目例を整理

人材類型

人材類型	定義
ビジネスアーキテクト	関係者間の協働関係の構築をリードしながら、DXの目的の設定から実現まで一貫して推進する人材
デザイナー	ビジネスや顧客の視点を総合的にとらえ、製品・サービスのデザインや開発プロセスの策定を担う人材
データサイエンティスト	業務変革や新規ビジネス実現にデータを活用するため、データ収集・解析の仕組みの設計・実装・運用を担う人材
ソフトウェアエンジニア	デジタル技術を活用した製品・サービスを提供するためのシステムやソフトウェアの設計・実装・運用を担う人材
サイバーセキュリティ	業務プロセスを支えるデジタル環境におけるサイバーセキュリティリスクの影響を抑制する対策を担う人材

共通スキルリスト

5カテゴリー/
12サブカテゴリー
のスキル

各ロールでの優先度

各ロールと必要スキルの詳細な対応は、[デジタルスキル標準](#)の第III部 第3章「人材類型・ロール」を参照してください。

DX推進スキル標準:共通スキルリスト

ビジネス変革

- 1.戦略・マネジメント・システム
- 2.ビジネスモデル・プロセス
- 3.デザイン

データ活用

- 4.データ・AIの戦略的活用
- 5.AI・データサイエンス
- 6.データエンジニアリング

テクノロジー

- 7.ソフトウェア開発
- 8.デジタルテクノロジー

セキュリティ

- 9.セキュリティマネジメント
- 10.セキュリティ技術

パーソナルスキル

- 11.ヒューマンスキル
- 12.コンセプチュアルスキル

これらの企業でDXを進めていくために
必要なスキルを持っている人が
現状どの程度存在しているのか？

次ページより調査結果*を紹介します。

*調査概要(対象者・期間など)は[こちら](#)

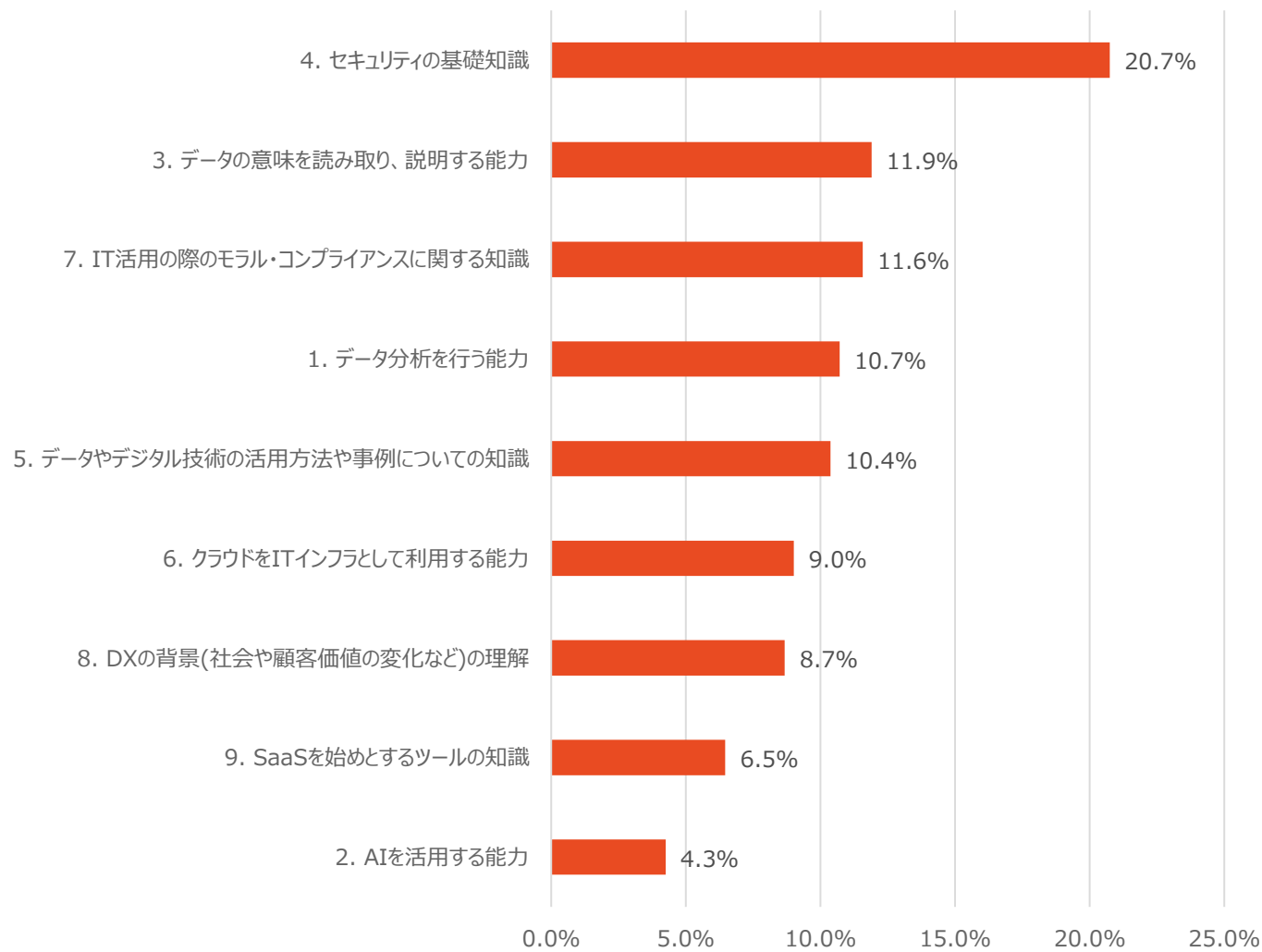
2. DXリテラシー標準に関するスキルの習得率

DXリテラシー標準に関する調査は、20～50代の男女を対象に実施。

最も習得率が高いのは、「セキュリティの基礎知識」の20.7%。これは、DX以前から必要とされてきたITスキルであることが一因と考えられる。

対して、AIの活用やSaaSの知識など、近年になって注目の上がったスキルに関しては10%を大きく下回る結果となった。

ご自身が身につけている能力・知識は次のうちどれですか。
(いくつでも)



(N=588/調査①)

2. DXリテラシー標準に関するスキルの習得率 - 世代間での比較

テクノロジーの利活用については大きな差は見られなかった。
最新の状況への適応は20代の方が早く、ビジネス実務に係るスキルは50代の方が習得率が高い。

差が大きいスキル

DXの背景(社会や顧客価値の変化など)の理解

20代
10.1%

50代
5.8%

データの意味を読み取り、説明する能力

20代
10.8%

50代
16.2%

同程度のスキル

クラウドをITインフラとして利用する能力

20代
9.5%

50代
9.7%

AIを活用する能力

20代
5.4%

50代
4.4%

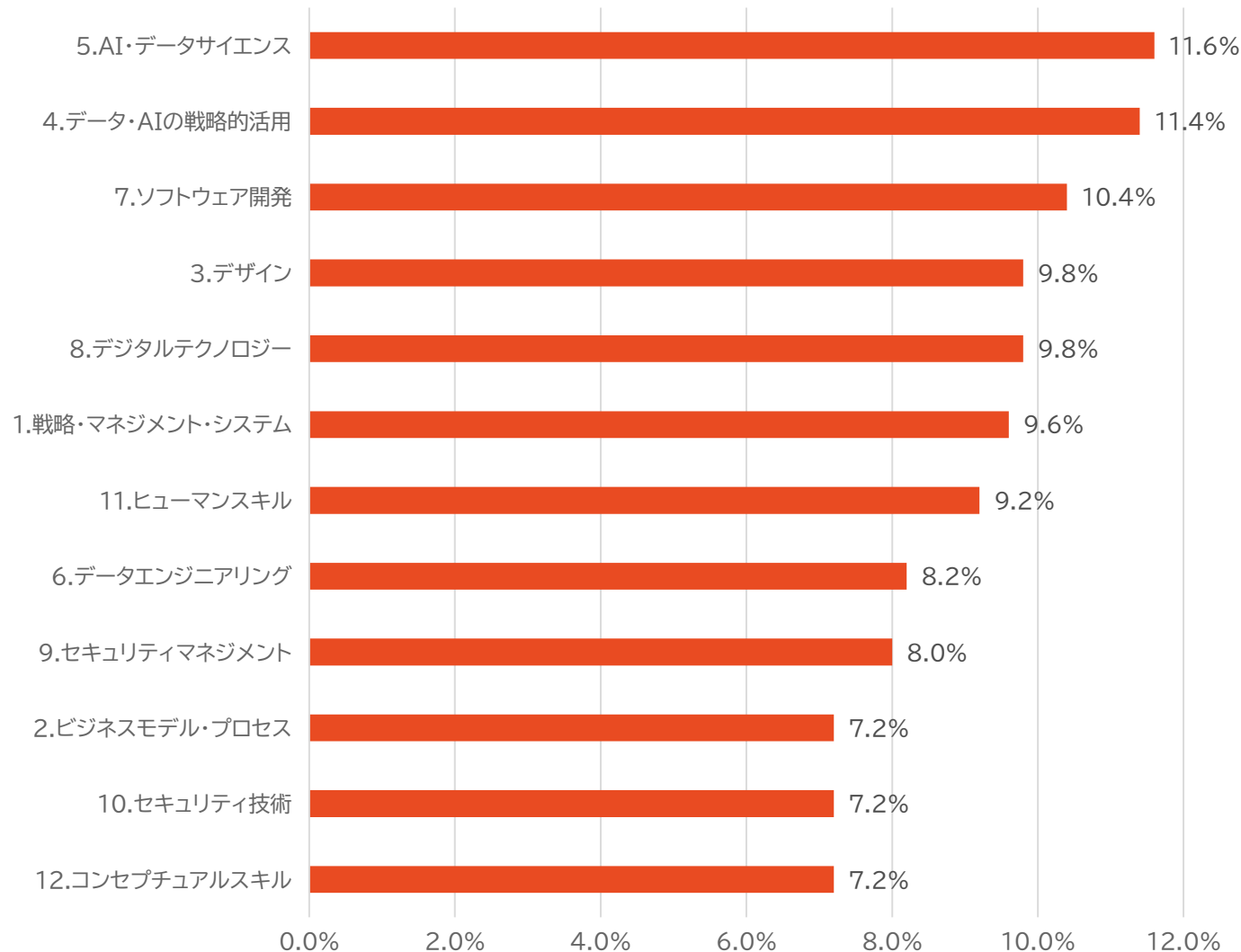
3. DX推進スキルの習得率

DX推進スキルに関する調査は、就職活動中～新卒3年目までの男女に対して実施。

DX推進スキルの習得率は平均で9.1%、最大でも11.6%となった。

AIやデータサイエンスに関するスキルを身につけている割合が比較的高く、ビジネスモデルやコンセプチュアルスキルなどのビジネス実務に関わるスキルは低くなる傾向となった。

以下の「企業でDXを推進する際に必要となるスキル」のうち、あなたがすでに身につけているものはどれですか。(いくつでも)



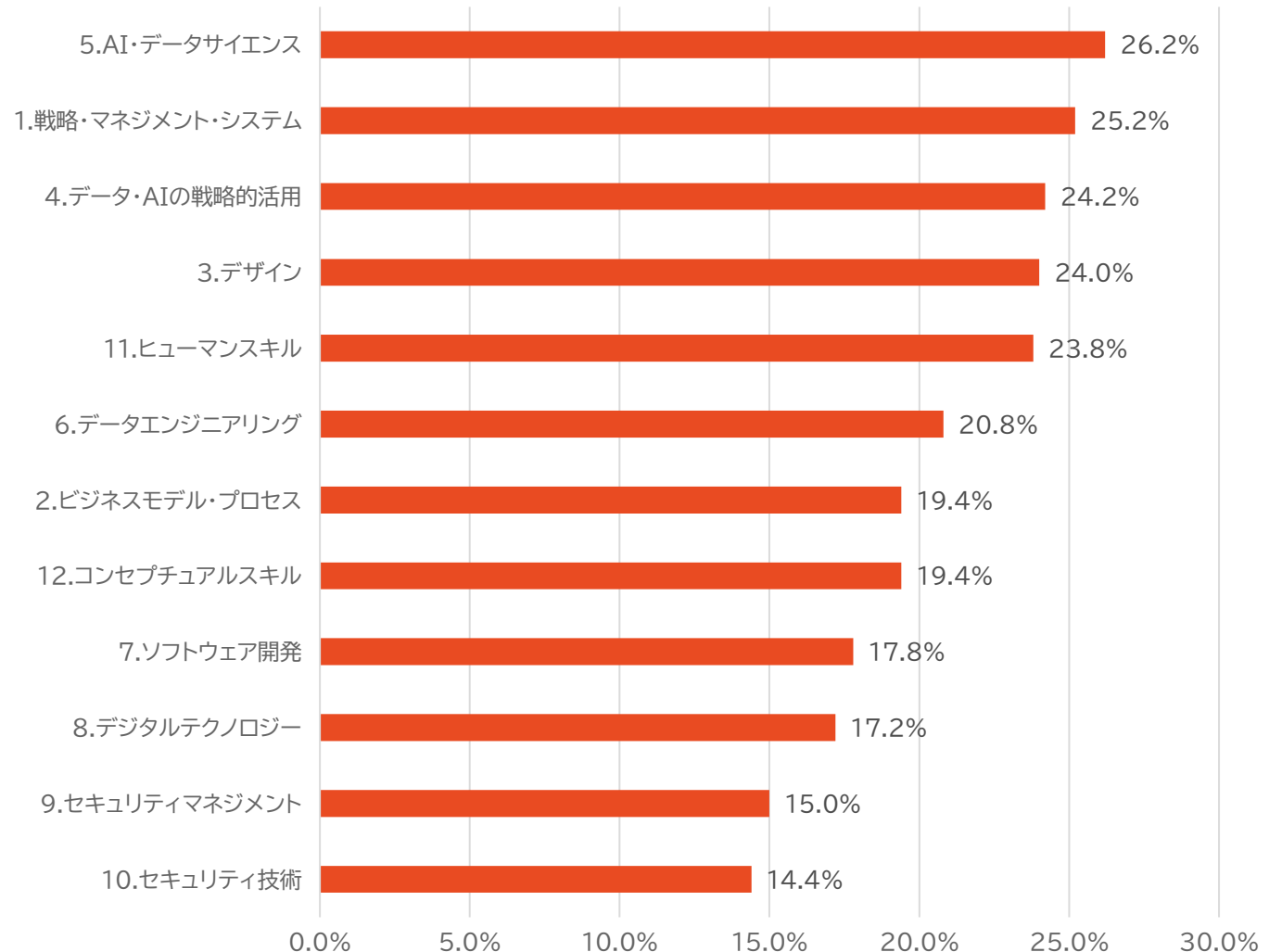
(N=500/調査②)

4. 学びたいDX推進スキル ランキング

学びたいスキルのランキングは、身につけているスキルの順位と似た結果となった。

上位にはAI関連スキルに加え、戦略・マネジメントやヒューマンスキルなど、リーダーシップの側面を含むスキルを学びたい人が多い印象となった。

以下の「企業でDXを推進する際に必要となるスキル」のうち、あなたが学びたいと思うものはどれですか。すでに身につけているスキルの場合は、より深く学びたいものを選択してください。(いくつでも)



(N=500/調査②)

スキルの習得率 と学びの意欲 まとめ

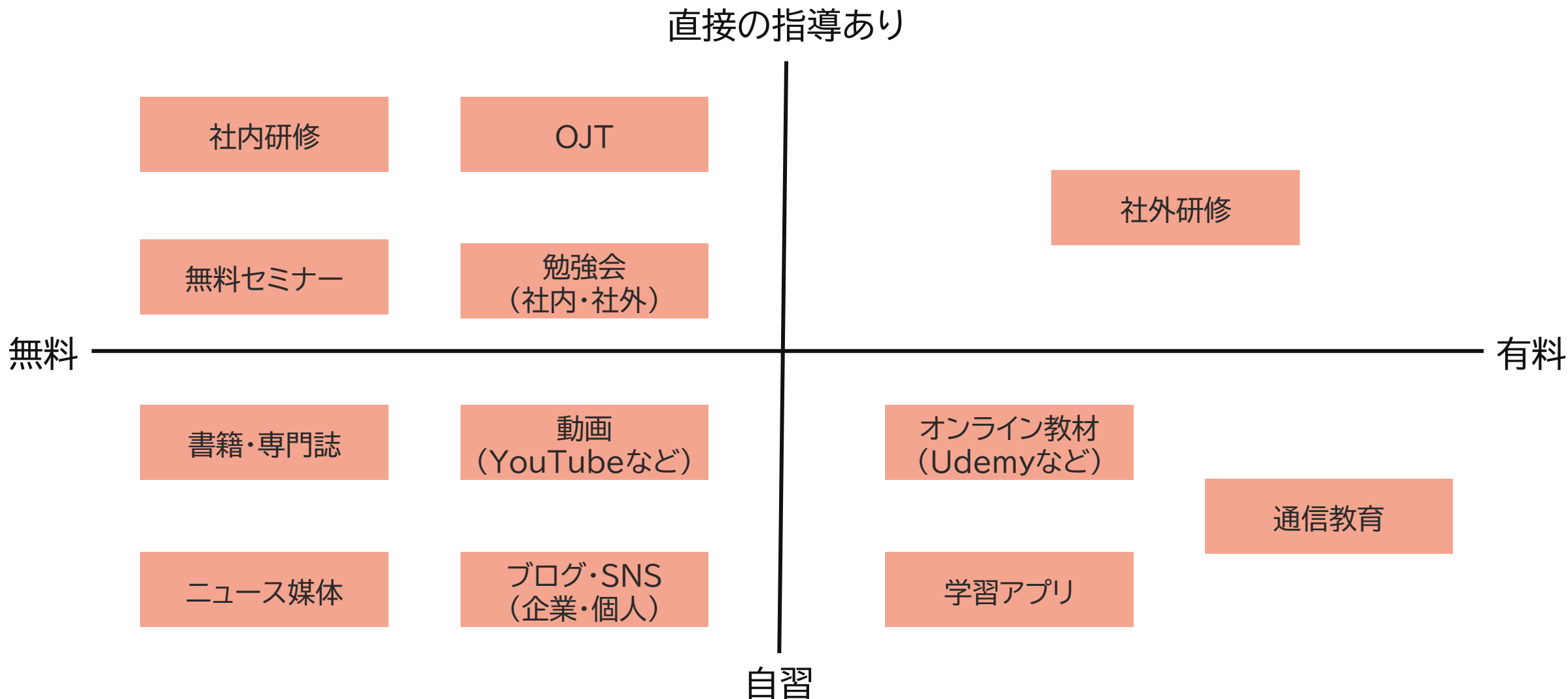
- DXリテラシー標準、DX推進スキルともに、ほとんどのスキルにおいて習得率は12%未満
- ミドル世代は実務能力に優れ、若年層はAIやデータ活用に優れる傾向
- 若年層は戦略・マネジメントなどDX推進を牽引するスキルの習得にも関心が高い

DX人材に必要なとなるスキルの習得率は
調査時点では低水準に留まる結果に。

それでは、それはどのように学べばよいのか？
一般的な学習方法についてまとめ、
また学ぶ側の希望についての回答を紹介します。

5. スキルの学び方

一般的な学習方法の種類を、直接の指導の有無・有料/無料で分類

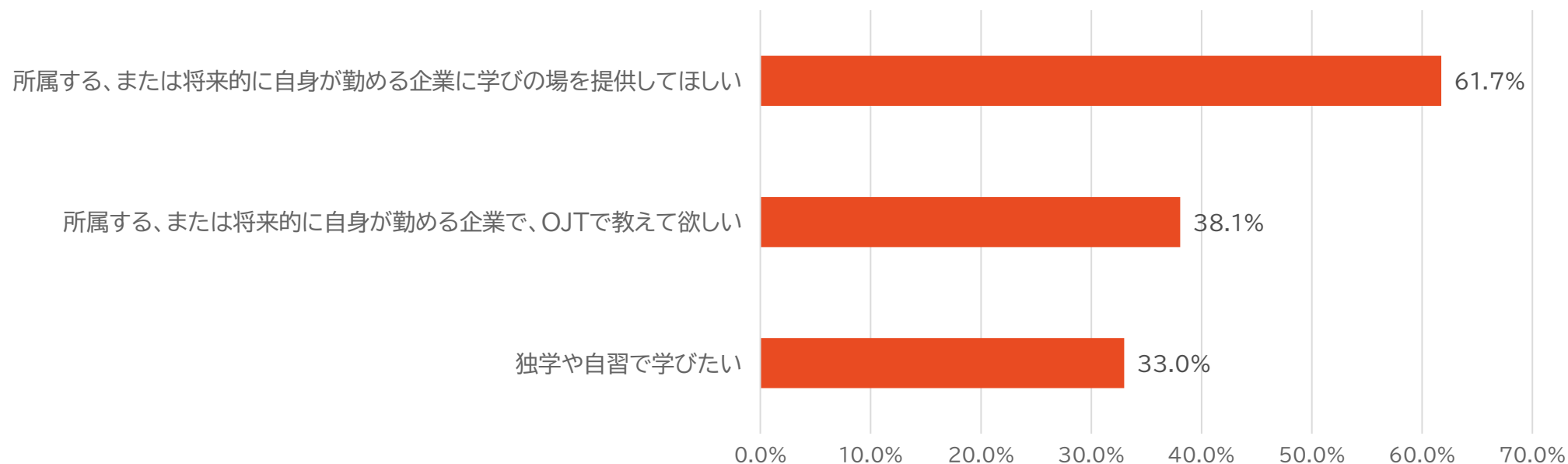


一般的な学習方法の特徴

学習方法	特徴	メリット	デメリット
社外研修	研修の専門企業が提供する講座を受講する方法。教室へ集合する形式やオンラインでの実施など。	専門家から正確で最新の知識を得たり、他社の人材と交流が可能。	費用が比較的高額な場合が多い。拘束時間が長く、業務との両立が難しいことも。
通信教育	教材を購入し、自習を進める方法。確認テストや添削等でフィードバックを受けることもできる。	空き時間に学習に取り組むことができる。	モチベーションの維持など、自己管理が必要。
オンライン教材	動画やテキスト、音声などのコンテンツをインターネットを介して閲覧する学習方法。	繰り返しの学習が可能で、コンテンツ提供者も最新情報にアップデートしやすい。	インターネットなどの環境整備や、自己管理が必要。
学習アプリ	スマートフォンにインストールして利用する学習コンテンツ。目標管理やクイズなどの機能を備えるものも多い。	スマートフォンで気軽に学習できる。隙間時間の活用にも向く。	画面サイズによる制約や、学習分野ごとにインストールする必要性がある。
社内研修	会社や事業方針に合わせた内容で行う研修。社員が講師として提供するケースも多い。	社内ルールや業務プロセスを習得しやすく、同僚との関係性も構築できる。	社内に閉じていることが多いため、知識や意見の偏りが発生する可能性がある。
OJT	実際の職場で業務を通じて行う研修。現場感覚や業務プロセスを学ぶことができる。	実践力が身につけやすく、先輩や上司からのフィードバックも得られる。	指導者の負担が多い。指導側のスキルや経験によって質が左右される。
無料セミナー	講演会やイベントなど、特定のテーマや技術に関する知識や情報を得ることができる。	無料で最新の知識を得ることができる。	営業目的で行われることもある。また情報収集のレベルに留まることが多い。
勉強会	参加者が共通のテーマについて互いに発表したり議論する形式の学び方。	同じ興味関心を持った人同士での情報交換やネットワーキングも可能。	参加者次第で内容や質が変わるため、体系だった知識の習得には向かない。
動画	インターネット上に公開されている動画で学習する方法。	視覚情報が豊富なため、テキストだけでは伝わりにくい知識も理解しやすい。	受動的な学習になりやすかったり、情報過多になりがちな面がある。
書籍・専門誌	各分野の専門的な本を読むことで学習する方法。	信頼性の高い情報を得ることができる。インターネット環境が不要。	情報が古くなることがある。検索性が低い。
ニュース媒体	新聞、テレビ、インターネットなどの媒体から発信される最新の情報や出来事などの知識を得る方法。	多角的な視点や専門家の意見に触れ、問題意識を養うことができる。	自身での情報の重要度の判断や、偏向報道への注意が必要。
ブログ・SNS	興味やニーズに応じて、個人の経験や意見を含めて学ぶことができる。	他のユーザーとの交流や、リアルタイムの情報が得られる。	情報が断片的であったり、信憑性が不確かなことがある。

学び方についての希望は、 「企業で場を用意してほしい」という回答が多かった

「企業でDXを推進する際に必要となるスキル」は、どのように学びたいと思いますか。(いくつでも)



(N=500/調査②)

スキルの学び方 まとめ

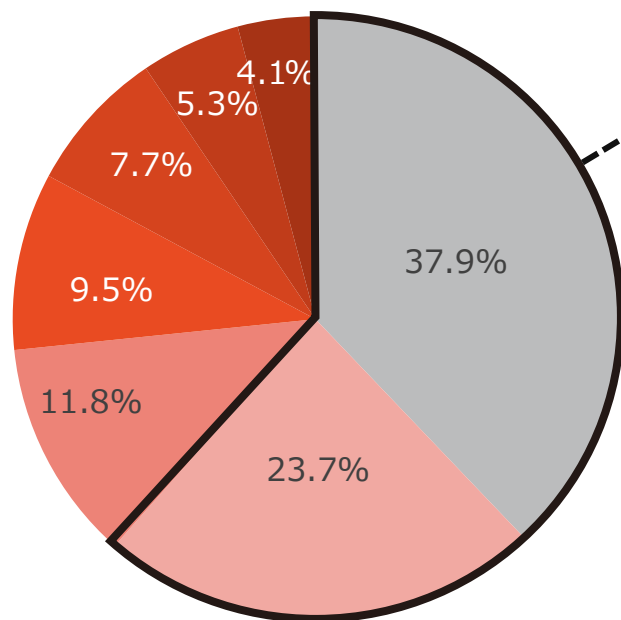
- 学習方法には、直接の指導の有無・有料/無料の分類の中でも様々あるが、学ぶ側の希望としては「企業で場を用意してほしい」と考える人が多い
- 学ぶべき対象としては、2～3章の習得率の低いスキルや4章の学びたい意欲の高いスキルを全体の傾向として参考に、自社の状況に合った学習目標を検討すべき
 - 習得率の低いスキル:クラウド活用、DXの背景の理解、セキュリティの管理や技術 など
 - 意欲の高いスキル:AIやデータ関連、戦略・マネジメント、ヒューマンスキル など

自社の状況に合った学習目標とは？
まずはDX推進の現在位置の把握から

企業のDX達成度の指標と現状

- 経済産業省およびIPAが公開している「[DX推進指標](#)」で、自社のDXの取り組みの進捗や成熟度を自己診断できることが可能。
- この成熟度レベルを参考に、自社がどの段階に当てはまっているかを質問したところ、61.5%がDXに全く取り組んでいない結果となった。

あなたの勤務先でのDXの推進度合いとして、次のうちもっとも近いものを選択してください。



(N=169/調査③)

	DXとは何かが分からない・聞いたことがない
レベル0	DXの取り組みは未着手
レベル1	全社戦略は明確でなく、部門単位での試行・実施をしている
レベル2	全社戦略に基づいて、一部の部門で推進されている
レベル3	全社戦略に基づいて、部門を横断して推進されている
レベル4	全社戦略に基づく実施に加え、定量的な指標を用いて継続的な定着・改善が行われている
レベル5	全社戦略に基づく実施、継続的な定着・改善に加え、グローバル市場でも競争優位性を確立している

おすすめアクション

1. 全社でのDXの認知・理解の促進: 正しい定義や必要性の背景を理解し意識の変革を測る
2. DX推進のための準備: 体制の整備や、DX戦略の策定、人材の確保

6. DX人材育成関連コンテンツ・サービス紹介

※いずれも無料公開

録画セミナー

DXに取り組む企業が直面する代表的な課題と、それに対応する人材育成ソリューションのパターンを解説

セミナー録画 無料視聴

あなたの
DX人材育成は
どこから？

DX人材育成デザインパターン | TRAINOCATE

DX人材 育成事例

様々な業界・業種の企業様のDX人材育成事例をご紹介します

エイチ・ツー・オー
リテイリング株式会社

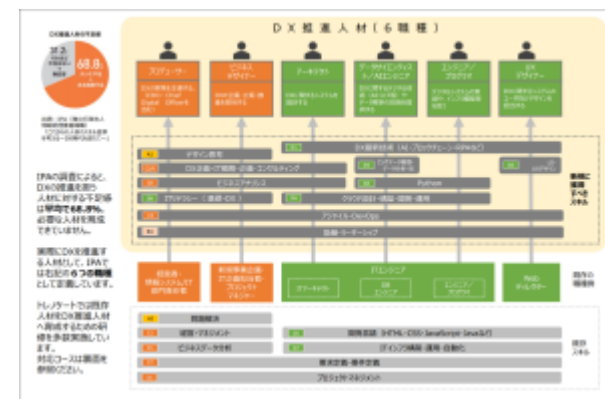
株式会社
テプコシステムズ

日本調剤株式会社

株式会社デンソー

DX人材 トレーニングマップ

既存人材をDX推進人材へ育成するための育成パスと対応する研修コースをご紹介します



Click |

視聴登録

Click |

Webで閲覧

Click |

PDFをダウンロード

トレノケートのDX人材育成支援

- DXの推進にあたって人材面でお悩みであれば、トレノケートにぜひ一度ご相談ください。

人材育成の専門家集団



- 1995年設立以来、人材育成一筋
- キャリアコンサルタントや、各種認定講師が正社員として在籍
- 世界上位20社のITトレーニング企業として認定
- その他、アワード受賞多数

幅広い対応範囲

ITスキル&ビジネス・ヒューマンスキル

新入社員から、リーダー・経営層まで

多数のオリジナルコースや一社向けカスタマイズ

Click |

DX人材育成に関する
ご相談・お問い合わせはこちら

調査概要

①DXの理解度に関する調査

- 対象:以下の男女588名(日本全国)
 - 20代～50代のビジネスパーソン
- 期間:2022年11月17日～18日
- 方法:インターネット調査

②DX(デジタルトランスフォーメーション)に関する意識調査

- 対象:以下の男女500名(日本全国)
 - 就職活動中の学生(23～25年卒)
 - 新卒1～3年目のビジネスパーソン
- 期間:2023年1月25日～27日
- 方法:インターネット調査

③日本のデジタル競争力に関連するアンケート調査

- 対象:以下の男女169名(日本全国)
 - 20代～60代男女のビジネスパーソン
- 期間:2022年7月25日
- 方法:インターネット調査



TRAINOCATE